

# 裊岩秀勝先生を偲ぶ会

## 【次 第】

- 1) 開会の辞
- 2) 故人の紹介
- 3) 黙 禱
- 4) 追悼の言葉
- 5) 献 杯
- 6) 会 食  
    追悼の言葉
- 7) 閉会の辞
- 8) 写真撮影

写真提供：オフィスタカオ

〒124-0011

東京都葛飾区四つ木 4-19-21K-house101

電話 03-6662-8266 オフィスタカオ代表 高尾 啓介

## 【巖岩秀勝先生の紹介】

### (略歴)

昭和16年	2月10日	岩手県で誕生
昭和34年	3月31日	岩手県立山田高等学校卒業
昭和38年	3月31日	国士舘大学体育学部卒業
昭和38年	4月1日	大分県立津久見高等学校赴任
昭和53年	4月1日	大分県立佐賀関高等学校赴任
昭和50年	4月1日	大分県アマチュアボクシング連盟理事
平成3年	4月1日	大分県立鶴崎工業高等学校赴任
平成7年	4月1日	大分県ボクシング連盟副会長
平成13年	3月31日	定年退職
平成13年	4月1日	明豊中学・高等学校赴任
平成19年	3月31日	同校退職
平成23年	4月1日	大分県ボクシング連盟理事長
平成26年	4月1日	大分県ボクシング連盟会長 (R3.3.31まで)
令和4年	6月26日	熱中症による多臓器不全により永眠 (午前7:24)
令和4年	10月28日	死亡叙勲 (従五位旭日双光章) 受賞

### (功績)

巖岩秀勝先生は、昭和16年2月10日に岩手県に生まれ、昭和38年3月に国士舘大学体育学部を卒業し、同年4月から大分県立津久見高等学校、昭和53年4月から大分県立佐賀関高等学校、平成3年4月から大分県立鶴崎工業高等学校で保健体育の教諭として教鞭を執りながら、ボクシング部の監督として多くの全国チャンピオンや日本代表選手を輩出した。公立高校を定年退職後の平成13年4月から私立の明豊高等学校でボクシング部を創設し平成19年3月までインターハイ選手などを育成した。

巖岩先生は、国士舘大学時代に柔道選手として将来を嘱望される中、ボクシングの魅力に目覚め、柔道部の練習後にボクシングジムで日々の練習に取り組んでいた。4年次には、地元である岩手県での教員も検討したが、ボクシングの指導者が不在であり、一巡目国体を控えた大分県で教員となる決意をし、昭和38年に大分県立津久見高等学校に赴任した。当時はボクシングが野蛮な競技として誤解されることもあったため、部員の規律を正し、基本練習を徹底する実直な練習、強豪校との練習試合を繰り返す中で、部員の競技力は向上し、昭和40年に津久見市で開催されたインターハイでは団体準優勝、昭和41年の大分国体では少年の部で団体優勝を果たした。その後も昭和42年にインターハイ団体優勝、昭和43年福井国体団体優勝と大分県のボクシングを全国トップレベルへと導いた。15年間津久見高等学校に勤務した後、大分県立佐賀関高等学校、大分県立鶴崎工業高等学校でもボクシング部を創部し、数多くの全国チャンピオンや日本代表選手を育成した。

公立高校を定年退職後は私立の明豊高等学校でボクシング部を創部しボクシング競技の普及に貢献した。